

情報通信審議会 情報通信技術分科会

- 放送システム委員会 STL/TTL/TSL 高度化作業班（第1回）
議事概要

1 日時

令和7年1月31日（金） 10:00～11:00

2 場所

WEB会議での開催

3 議題

- (1) 検討開始について
- (2) マイクロ波帯 STL/TTL/TSL の高度化に関する検討について
- (3) 調査の進め方について
- (4) その他

4 出席者（順不同、敬称略）

【構成員】大槻主任（慶應義塾大学）、穴澤構成員（株式会社TBS）、新井構成員（一般社団法人日本民間放送連盟）、安藤構成員（電気事業連合会）、池田構成員（株式会社NHKテクノロジーズ）、池谷構成員（株式会社フジテレビジョン）、井上構成員（株式会社テレビ朝日）、今村構成員（一般社団法人電波産業会）、遠藤構成員（日本テレビ放送網株式会社）、大廣構成員（日本通信機株式会社）、小野構成員（日本無線株式会社）、草野構成員（インテルサット）、國吉構成員（国土交通省）、小橋構成員（スカパーJSAT株式会社）、酒井構成員（日本放送協会）、鈴木構成員（一般社団法人電波産業会）、田井構成員（株式会社テレビ東京）、高田構成員（日本電気株式会社）、鷹取構成員（一般社団法人電波産業会）、中川構成員（日本放送協会）、平沢構成員（池上通信機株式会社）、平松構成員（国立天文台）、廣瀬構成員（株式会社国際電気）、福元構成員（株式会社NTTドコモ）

【代理出席】中山氏（一般社団法人放送サービス高度化推進協会）、清水氏（東芝インフラシステムズ株式会社）

【事務局】総務省情報流通常行政局放送技術課（近藤課長補佐、服部係長、野本官）

5 配付資料

資料マ高作1-1 検討開始について

資料マ高作1-2 マイクロ波帯 STL/TTL/TSL の高度化に関する検討（令和5年度技術試験事務の結果）

資料マ高作1-3 調査の進め方について

6 議事概要

議事に先立ち、大槻主任から挨拶があった。

(1) 検討会開始について

事務局より、資料マ高作 1-1 に基づき、検討開始について説明が行われた。事務局の説明の後、大槻主任から、作業班の主査代理として鳥取大学の斎藤構成員（鳥取大学）が指名された。続けて、構成員から自己紹介があった。

主な質疑は、以下のとおり。

(小橋構成員) B バンドは今回の高度化の周波数の対象外というご説明があり、その背景として V2X での利用があるからということだった。周波数的には V2X は 5895MHz から、5925MHz であると思われ、一方 B バンドは 5850 からであるので低い周波数は重なっていないが、B バンドはもう高度化の対象外とするということでよいか。

(事務局) ご理解の通り。B バンドすべてが V2X のために移行するわけではいが、既存の B バンド利用の皆様に移行をしていただくということもあり、高度化システムについては、B バンド全域について対象としないとしたもの。

(小橋構成員) 従来の STL・TTL のシステムは残る場合もあるか。

(事務局) 移行対象ではない周波数については、今お使いの事業者がそのまま残る場合もある。

(2) マイクロ波帯 STL/TTL/TSL の高度化に関する検討について

放送サービス高度化推進協会中山氏（中村構成員の代理）より、資料マ高作 1-2 に基づき令和 5 年度技術試験事務の結果について説明が行われた。

主な質疑は、以下のとおり。

(鷹取構成員) 資料の P8 に共用対象システムの一覧があるが、ここに無線 LAN 関係が記載されていない。表は抜粋であり掲載がないが 20 種類の中にはあったのか、それとも今後検討することになるのか。

(池田氏) 調査時点では、無線 LAN については含めていなかった。この後、ご説明がある事務局資料には含まれている。したがって次年度の共用の検討においては対象として含まれる。事務局から補足があれば。

(事務局) 資料 1-2 については、R5 年度の実施内容であり、この時には網羅的に調べられなかったもの。その後、追跡調査あるいは事務局での調査により網羅的に調べられており、この後ご説明する資料マ高作 1-3 の方には含めている。

(3) 調査の進め方について

事務局より、資料マ高作 1-3 に基づき今後の調査の進め方について説明が行われた。

主な質疑は、以下のとおり。

(鷹取構成員) 無線 LAN については、周波数共用として記載していただいているが、5925MHz から 6425MHz も隣接に該当すると思われる。追記いただきたい。

(事務局) 漏れており失礼申し上げた。追記したい。

(小橋構成員) P3、空中線電力のところについて、片偏波で 2W で偏波 MIMO にすると 4W ということであるが、現行の STL/TTL の運用において偏波ごとに別々の映像信号を送信している運用はあるか。

(事務局) 放送事業用バンドの技術基準上はコチャンネル配置ができることになっているが、事務局で把握している限りでは、実際の運用でコンチャンネル配置をしている例はないと承知している。共用バンドの MN において、電通事業者様の運用などでは利用があると聞いている。

(小橋構成員) そうすると、既存ではコチャンネルの運用がないが、MIMO が導入されると、既存の回線は 2W だったものが MIMO では 4W になるということでよいか。

(事務局) ご理解のとおり。そこが論点の一つになるとを考えている。

(福元構成員) P5 の 6570~6870 MHz と 7125~7900MHz の部分、「電通・公共・一般業務（固定）」となっているが、P6 の帯の絵では、「公共・一般業務（固定）」となっている。どちらかが誤記だと思う。弊社がこの帯域を使用しているので、電通があると思われ、P6 が誤記と思われる。

(事務局) どちらかが誤記と思われるが、確認の上、訂正させていただきたい。

(4) その他

事務局より、JAXA 殿が利用する周波数について共用する周波数があったため、次回から構成員として参加していただきたい旨の説明があった。

また、次回の作業班は、4 月ごろを予定している旨の連絡があった。

(以上)